

簡裁訴訟代理等能力認定考査対策講座

1 新人研修（裁判事務）の体系

- (1) 連合会の中央新人研修（後期）
 - 2 の司法書士「特別研修」への架橋（裁判事務入門）
- (2) 全国 8 つのブロック協議会主催の新人研修
- (3) 各単位会の新人研修

2 司法書士特別研修（合計 1 0 0 時間）

- (1) 集合研修（約 1 2 時間）
 - ア 内容
 - 民事訴訟法及び裁判事務の基礎知識
 - イ 研修の形態
 - 予め収録された講義の D V D を大教室で試聴
 - ウ 講師
 - 学者、裁判官、弁護士
- (2) グループ研修（約 3 6 時間）
 - ア 内容
 - 具体的事案（設例）を解く
 - イ 研修の形態
 - グループ（受講者約 1 5 名）で討議する。
 - ゼミ形式 → 予習の比重大
 - ウ 講師
 - 司法書士（チューター）
- (3) ゼミナール（約 1 8 時間）
 - ア 内容
 - 基礎知識（グループ研修の効果）の確認
 - イ 研修の形態
 - グループ研修の 2 つのグループ（合計約 3 0 名）で双方向の講義
 - ウ 講師
 - 弁護士
- (4) 模擬裁判（約 1 2 時間）
 - ア 内容
 - 具体的事案について、実戦形式の訴訟を実演
 - イ 研修の形態
 - グループ研修の 2 つのグループが、原告側と被告側に分かれて対決

- ウ 講師
弁護士

(5) 法廷傍聴（約 6 時間）

- ア 内容
実際の訴訟事件を傍聴席で傍聴する
- イ 研修の形態
グループ研修の 1 グループを半分に分けて傍聴する
- ウ 引率
司法書士（チューター）

(6) 司法書士倫理、簡裁代理権の範囲（約 4 時間）

- ア 内容
裁判事務に関する司法書士法及び司法書士倫理の知識
- イ 研修の形態
講義（執務上の心構え等）
- ウ 講師
弁護士

3 法務大臣認定考査

(1) 実施する目的

特別研修の効果測定

(2) 考査の実際

- ア 内容
特別研修の研修項目全般
- イ 出題形式
当事者（原告、被告）の言い分に基づいて、記述式で解答させる
- ウ 難易度

(3) 合格点

40 点／70 点満点

(4) 合格率

65～80%

4 特別研修を効果的に受講し、認定考査に合格するために

- (1) 民法、商法の基礎知識／売買、消費貸借、質貸借、商行為
- (2) 民事訴訟法の基礎知識
- (3) 研修教材の予習（必読図書、参考文献）
- (4) 復習（研修教材、過去問）
- (5) その他

以上